

目的をもって、情報を関連付けて読み、考えをまとめる授業づくり ～非連続型テキストと叙述を関連付けて読む力の育成～

新潟市立亀田小学校 山田 綾子

1 はじめに

基幹の学力と言われる国語科は、目の前の子どもが大人になった時に家庭、地域、そして社会で役立つ言葉の力を育む教科である。説明文は、将来大人になった時、一番目にする事の多い文種であろう。生きて働く読解力＝使える学力、として説明文を読む際の読みのポイントを授けることは予測不能な未来社会を生き抜く子どもたちにとって大きな武器となるだろう。

本稿はこれらのポイントのうち、非連続型テキストと文章を関連付けて読む力を育成するための指導の工夫について述べる。非連続型テキストとは、データを視覚的に表現した図表やグラフ、写真や挿絵などを指す。説明文中に筆者が配置した非連続型テキストを意図的に隠し、文章のみを子どもに提示することで文章が分かりにくいという困り感を引き出す。文章だけでは分かりにくい点を全体で共有した後、非連続型テキストのついた文章を提示することによって、分かりにくかった事実が明らかとなり、筆者がその非連続型テキストを配置した効果に着目させることをねらう。

2 実践の概要

(1) 単元名 資料を用いた文章の効果を考えよう～MY MVP 資料はこれです！～

(2) 教材 「固有種が教えてくれること『国語五 銀河』光村図書」

(3) 単元の目標

- 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関連の表し方を理解することができる。 【知識及び技能】
- 目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしようとすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 図表と本文の結び付きや論の進め方について考え、学習の見通しをもって分かったことや考えたことを粘り強く文章にまとめようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

(4) 単元計画（全 10 時間）

次	時間	学 習 活 動
1	1	筆者について知り、単元のゴールを共有する。
	2	筆者の主張と本文の構造（はじめ・中・終わり）を読む。
	3	教科書の本文③～⑩段落から非連続型テキスト（表、図、グラフ）を抜いた文章のみを
	4	提示し、文字情報だけでは分かりにくい文章を取り出して共有する。
	5	資料 1 がない文章とある文章を比較することで③段落の文章と資料 1 を結び付けて読み、資料 1 がある効果を考える。
	6	資料 2 がない文章とある文章を比較することで④⑤⑥段落の文章と資料 2 を結び付けて読み、資料 2 がある効果を考える。

	7	資料 3, 4 が無い文章とある文章を比較することで⑦段落の文章と資料 3, 4 を結び付けて読み, 資料 3, 4 がある効果を考える。
	8	資料 6, 7 が無い文章とある文章を比較することで⑧⑨段落の文章と資料 6, 7 を結び付けて読み, 資料 6, 7 がある効果を考える。
2	9	MY MVP 資料を決め, 筆者に報告する手紙を書く。
	10	単元全体を振り返り, 資料を用いた文章の効果を実感する。

3 単元の実際

第 1 時：読みの目的意識・相手意識の醸成

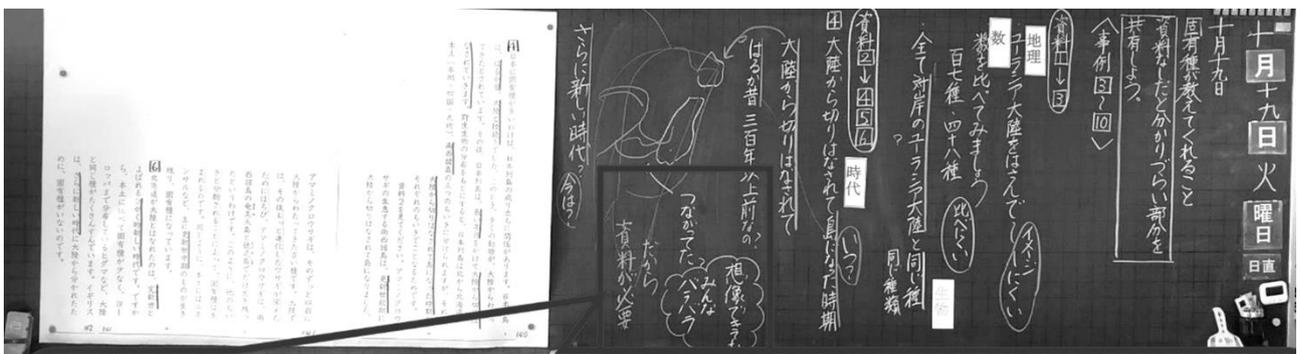
何のためにこの説明文を読むのかという、読みの目的をもたせるために、筆者の存在に注目させた。「固有種が教えてくれること」の筆者である今泉忠明氏は動物学者で文筆家でもある。「ざんねんないきもの図鑑」等、子どもが一度は目にしたことのある子ども向け図書も数多く執筆している。この事実を子どもに知らせた上で、筆者からメッセージ動画が届いていることを子どもに伝える。筆者から『固有種が教えてくれること』に添えた非連続型テキスト（以下、資料）のうち、どれが最も効果的か、読みに役立ったあなたの MVP 資料を教えてください。」と話してもらう。子どもは、自分の MY MVP 資料を探すために、その効果を考えながら読むという読みの目的意識をもつ。また、単元終末にその MVP 資料を筆者に報告するという相手意識も併せてもつ。



読むための動機付けこそが、子どもの学びのエンジンとなる。単元冒頭で明確な目的意識・相手意識を子どもと教師が共有したことは、子どもにとって難解な説明文でよく読もう、という学習意欲を持続させるのに効果があった。文章に添えられた資料の効果を知るために読むという一点に子どもの意識を向けさせることができた。

第 3・4 時：資料（図表）を抜いた本文のみで内容の理解を試みる。

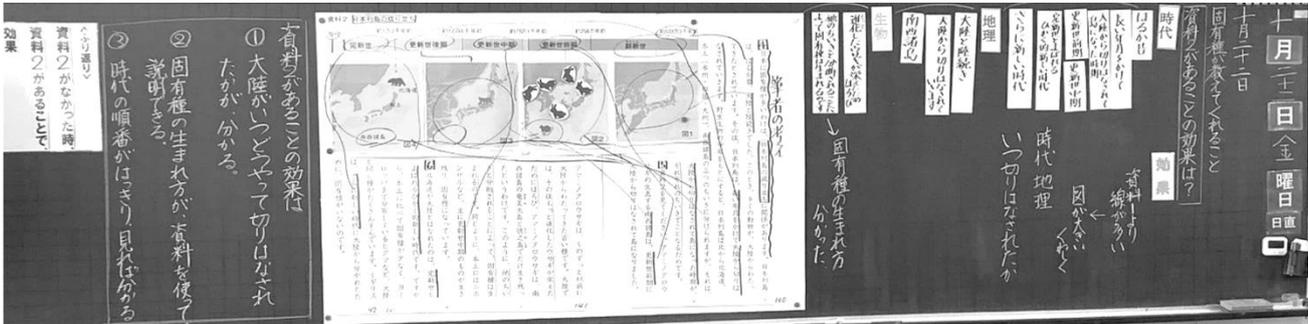
まず、教科書の本文から資料（図表）を削除した文字情報のみの本文を提示する。「資料なし」の本文を読んだ子どもは、たちまち表情が曇る。文字ばかりの情報から筆者の説明が理解できない言葉や文章が出てくるからだ。友達の戸惑いに気付いた周りの複数の子どもが自分の解釈を話し始めた。だが、それぞれの解釈も文章から受け取ったイメージも個々に違い、ズレが見られたことから、資料がないと筆者の主張を正確に読み取ることができないと子どもは感じ始めていた。



第6時：資料2を抜いた図表なしの本文と、図表ありの本文を比較し、その効果を検討する。

子どもは、資料2がない時点で④⑤⑥段落の読みにくさを訴えていた。理由は、次の3つの事柄が同時進行で移り変わることを説明する文章であるからだ。

- ① 時代を表す年号が「鮮新世」→「更新世前期」→・・・と移り変わる過程
- ② 大陸から日本列島が切り離されていく過程
- ③ 大陸から切り離され切り離された動物が日本列島で固有種となっていく過程



資料2の図が説明を補完しているのだが、図なしの段階ではほとんどの子どもが移りゆくそれぞれの出来事の関連性を理解できずにいた。特に③の「大陸から切り離され取り残された動物が固有種となっていく過程」は読み取れなかった。だが、資料2の図1と図2を比較すると、南西諸島が大陸から切り離されていく過程が年号とともに図で可視化されている。この「図1, 2」と「南西諸島は、更新世前期に大陸から切り離されて島になりました」の一文を関連付け、大陸の動きを理解することができた。さらに、「島の上に置かれたウサギの図」と「南西諸島の奄美大島と徳之島でだけ生き残ったというわけです」という一文によって、大陸の動きとウサギが残され固有種となった事実も関連付けて理解することができた。文章と図を関連付けて読むことで、動きのある過程についても分かりやすく表現できることに子どもたちは気付いた。

【振り返り】

資料2がなかった時、なぜ他のちいきと分断されるだけで、固有種が生まれるのか、理解できませんでした。でも、資料2があることによって、固有種の生まれ方がよくわかりました。資料2には、時代の順番、大陸がいつ、どうやって切りはなされたかが一目で分かる効果があると思います。

4 おわりに

物語文には挿絵が、説明文には図表や写真等が、文章を補完するものとして添えられていることが子どもにとって当たり前で常識だった。その常識を破ることで、子どもは文章だけで内容を理解することの難しさを味わった。だからこそ「資料なし」を経験することで挿絵や図表等の効果に改めて気付かせることができたのだと思う。筆者が伝えたいことをより分かりやすく説得力をもって説明するための図表の存在の大きさを理解させることができた。

※ 令和4年度新潟音読研究会 夏季セミナー 第一講座発表実践より

【実践発表者】 新潟市立新通小学校 伊藤 陽子 教諭